

## 2013 年度 ドクター研究員研究活動実績報告書

|  |               |
|--|---------------|
| ふり がな<br>氏 名   | りゅう けい<br>劉 慶 |
| (研究テーマ名)<br>日本の古典演劇と中国古典との関わりについて  |               |
| (研究活動実績)<br><p>今年度は、上記の研究テーマをめぐって、以下の研究活動を行った。</p> <p>奥浄瑠璃とみられる『二人くずの葉』は、阪口弘之氏と四本奈央氏によって 2000 年に紹介された作品であるが、本作の創作過程について分析を行った。本作の内容に近い作品を、浄瑠璃というジャンルを超えて、また時代の幅を広げて調査した結果、曲亭馬琴の読本『敵討裏見葛葉』に類似することが判明した。この両作品の相互関係については、引き続き検討しなければならない部分も多いが、創作時期に関しては、『二人くずの葉』が『敵討裏見葛葉』の後に創作されたと考えられる。これは、奥浄瑠璃の性質を特徴づけるために最適の事例であると考えられる。以上の内容を、奥浄瑠璃研究会第 27 回例会（2013 年 5 月 11 日）で発表した。</p> <p>以上の研究以外では、日本の現代文学を母国の中国に紹介する試みを始めている。今取り組んでいるのは、現代小説を中国語に翻訳することである。目指しているのは、人民文学出版社という文化・文学の領域においては権威となっている出版社からの出版で、それによって、一般庶民にも中国の研究者にも日本の小説を読んでもらえるようになると考えている。繰り返し投稿を重ねて、最近漸く一つの作品が出版されることになった。それは筒井康隆氏の『つばくろ会からまいりました』（『短編ベストコレクション 現代の小説 2012』所収、徳間文庫）という作品で、翻訳は『小説山荘・外国最新優秀短編小説選 2012-2013』（主任編集者 周曉萃）に採用される予定である。</p> |               |